

# 岩手大学・東京農工大学の 教育連携による獣医学教育改革

岩手大学共同獣医学科  
落合 謙爾

# 岩手大学の獣医学教育

1902年(明治35年)

## 盛岡高等農林学校

- 日本最初の官立旧制専門学校
- 設立目的: 食糧増産と農業技術者、農業教員と中堅技術官吏の育成
- 創立時に獣医学科が設置



重要文化財 旧盛岡高等農林学校本館



# 臨床実習

## 1. 単独開講

小動物内科学・外科学・画像診断学(4年次、計5単位)

臨床繁殖系実習・大動物臨床実習(4～5年次、計4単位)

## 2. 共同開講: 総合参加型臨床実習 I ～ VI (5年次、6単位)

臨床実習	単位	開催校(場所)
I・II(伴侶動物)	2	それぞれの在籍校
III・IV(伴侶動物)	2	農工大・動物医療センター
V・VI(産業動物)	2	岩大・近郊の牧場・農家

# 農工大生に提供する産業動物参加型臨床実習

期間:2週間(短期集中)

宿泊:岩手大学御明神牧場宿泊施設、盛岡市内ホテル

内容:学内診察、往診随行による診療実習、病理解剖、  
症例検討会

## 学外実習のNOSAI臨床指導教授、教員、学生21名の割り振り(2019年7月)

	NOSAI(担当先生)	教員	車	学外班	学生4~5名
7月1日 月	学外実習 A班(21名)				
	①葛巻(木村淳所長)	岡田	フォレスター(農) 3800	1班	1~5班
	②胆江(高橋史所長)	高橋正	ノア(農) 6038	2班	
	③遠野(高橋成幸所長)	高橋透	バジェロ(農) 7658	3班	
	④北岩手(近藤寛樹所長)	片山	デリカ(病院) 8997	4班	
	⑤北基幹(西家眞雄所長)	福井	ノア(病院) 3583	5班	
7月2日 火	学外実習 A班(21名)				
	①葛巻(木村淳所長)	岡田	フォレスター(農) 3800	1班	1~5班
	②胆江(高橋史所長)	高橋正	エスティマ(復興支援) 3169	2班	
	③遠野(高橋成幸所長)	高橋透	バジェロ(農) 7658	3班	
	④北岩手(近藤寛樹所長)	星野	デリカ(病院) 8997	4班	
	⑤北基幹(西家眞雄所長)	山崎	ノア(病院) 3583	5班	
7月3日 水	学外実習 B班(21名)				
	①葛巻(木村淳所長)	岡田	フォレスター(農) 3800	6班	6~10班
	②胆江(高橋史所長)	高橋正	エスティマ(復興支援) 3169	7班	
	③遠野(高橋成幸所長)	高橋透	バジェロ(農) 7658	8班	
	④北岩手(近藤寛樹所長)	小林	デリカ(病院) 8997	9班	
	⑤北基幹(西家眞雄所長)	大沼	ノア(病院) 3583	10班	
7月4日 木	学外実習 B班(21名)				
	①葛巻(木村淳所長)	岡田	フォレスター(農) 3800	6班	6~10班
	②胆江(高橋史所長)	高橋正	エスティマ(復興支援) 3169	7班	
	③遠野(高橋成幸所長)	高橋透	バジェロ(農) 7658	8班	
	④北岩手(近藤寛樹所長)	宇塚	デリカ(病院) 8997	9班	
	⑤北基幹(西家眞雄所長)	内田	ノア(病院) 3583	10班	

## 共同獣医学課程の効果と課題

1. 卒業生によるアンケート;
  - バランスの取れた小動物・産業動物臨床教育を実現できた共同獣医学課程の評価は高い
  - 要望: 専門教育科目の前倒し  
3～5年次の講義・実習が過密のため
2. 教員数の確保; 教員の定年退職に伴う削減
3. 剖検実習に供する動物の確保
  - 伴侶動物や馬の動物数は不十分
4. 実習施設の老朽化、不足  
病理解剖室や動物施設は改善要

# 課題、現状を踏まえた本学の取組

## 教育の質保証と 国際通用性の確保

## 実践教育実施体制の整備 伴侶動物 産業動物

## 研究体制 獣医学研究科

2021年

### これまでの取り組み

- ・社会のニーズに対応した特徴ある教育、地域と連携した産業動物臨床、家畜・公衆衛生教育の実践
- ・東京農工大学との共同獣医学科および共同大学院の設置による教育の質保証の確保

### これまでの取り組み

- ・参加型臨床実習の実施
- ・二次病院として地域の患畜の受け入れと高度獣医療の提供
- ・症例検討会などの開催

### これまでの経過

- ・獣医事審議会作業部会が参加型臨床実習の実施を提示
- ・農業共済など連携協力に基づく、充実した産業動物参加型臨床実習プログラム（往診随行、病理解剖、症例検討会）

### これまでの取り組み

- FAMSを中心として多くの外部資金を獲得し、畜産物の生産から食卓まで(Farm to Table)の食の安全に関する成果を世界に発信

### 取組

国際的に通用する獣医学教育の実現、Day One Competency 準拠を目指した共同獣医学課程の教育カリキュラムの課題抽出とこれらへの対応、カリキュラム改訂

- ・本学の強み、産業動物臨床教育の充実・強化とこれによる産業動物獣医師の育成・確保、獣医師の地域偏在と職域偏在解消を目指した獣医療体制整備への貢献
- ・地域枠入試の実施
- ・高度獣医療、DX、アニマルウェルフェアに対応したハンズオン実習とこれらを担う次世代獣医師の育成・確保

### 取組

- ・東北6県の県獣医師会との参加型臨床実習に関する協定締結
- ・東北地方の主要都市にブランチ診療施設を設置
- ・地域開業獣医師との連携による、一次診療の参加型臨床実習の実施、IT技術を駆使した高度獣医療の提供、検査体制の充実

### 取組

- ・地域の診療・防疫組織と連携し、産業動物臨床教育の拠点化により参加型臨床実習の高度化を推進
- ・国内外の獣医系大学と連携し、産業動物臨床教育の国際化を推進、教育研究拠点を形成

### 取組

- ・東日本地域の自治体（家畜保健衛生所、食肉衛生検査所など）との連携による重要家畜感染症・人獣共通感染症の感染伝播制御、診断・予防・治療法に関する研究拠点の形成
- ・“家畜生産現場での衛生管理”に関する国際連携教育・共同研究体制の構築

学部設置  
申請

大学間・広  
域連携

概算要求  
大学間・  
広域連携

概算要求  
組織整備

### 共同獣医学部の設置

- ・国際に通用する獣医学教育
- ・実践教育実施体制の整備（国際的な第三者評価を受審できる“裁量権”の確保）
- ・グローバルな視点から教育研究の高度化を目指した地域と産学官連携による教育改善・地域貢献・国際化

### 動物病院の機能強化

- ・東北地方における中核動物病院としての機能強化
- ・地域開業獣医師に対する学び直し支援
- ・卒業後直ちに活躍できる獣医師教育の強化

### 東日本獣医療推進センター の設置

- ・連携大学の学生を対象に年間を通して実践的な参加型臨床実習を実施
- ・地域獣医療の指導者、参加型臨床実習の指導者を育成・認定
- ・各大学で個別対応が難しい国際水準の臨床教育を可能とする

### 共同大学院の機能強化

- ・東日本全域での主体的・実践的家畜衛生教育研究の確立
- ・地域の重要家畜衛生問題解決のための国際的共同研究と人材育成

2027年

地方貢献獣医師養成のための教育研究体制の確立

# 本学の第4期に求められる獣医学教育改革 (令和4～9年度)

## 本学の強みである産業動物分野の充実

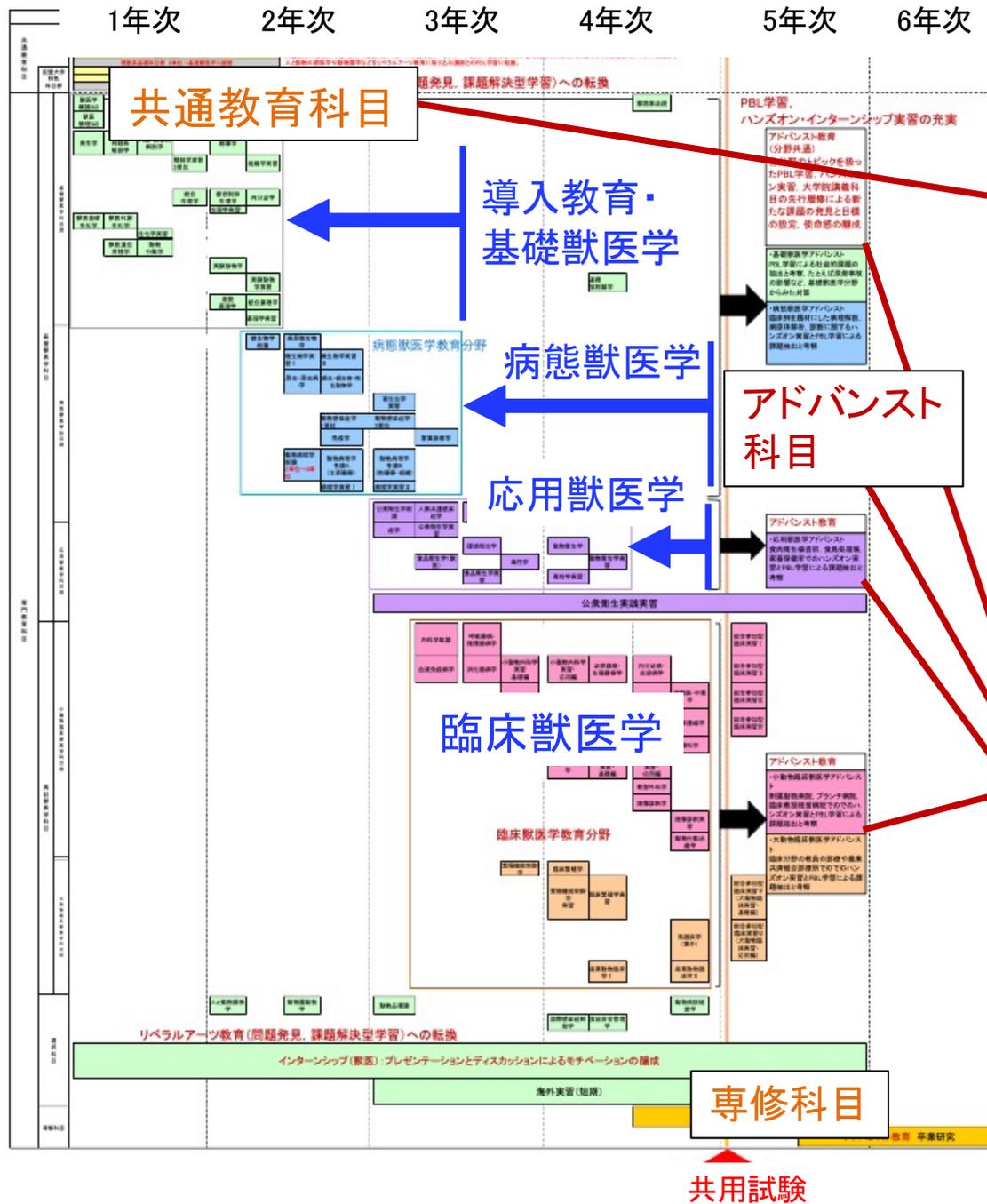
### 1. 教育研究体制の整備

- 共同教育体制の維持
- 地域枠入試の実施
- 国際的に通用する教育体制;  
最低限の資質能力(OIE 国際基準)を踏まえた取組  
→ 部局(学部)化

### 2. 参加型臨床実習環境の改善と他大学との連携

- 教育関係共同拠点形成
- 牧場・宿泊施設の改修

# 共同獣医学科完成後のカリキュラム見直し



**課題:** 学生からの要望と国際的に通用する教育の実現

1) **共通教育科目単位数削減:** リベラルアーツ教育への転換による個々の学生の目標の明確化 (急速に変化する時代に対応するための現実にある複合的な問題発見, 課題解決型学習へ)

2) **クォーター制の導入と5年次までの専門教育科目の大幅な前倒し**

3) **各学生のニーズに合った人材育成プログラムとして位置づけた5年次アドバンスト科目の開講:** 体験型学習の充実 (新たな課題発見・目標の再設定・使命感の醸成のためのPBL学習、ハンズオン・インターンシップ実習など、大学院講義科目の先行履修)